



伝統工芸の確かな手わざが生み出す

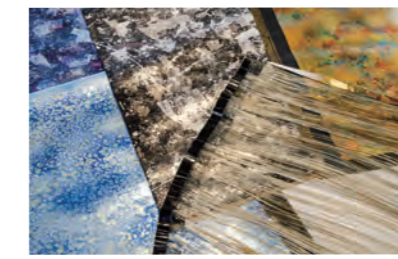
乗る人の心をひらき、 真の寛ぎをもたらす空間。

主に京都の伝統工芸の技を用いて、一台の車を唯一無二の空間にカスタマイズする「Kiwakoto Craft-car Service」。2019年秋、製作に半年以上の時間をかけて、世界にたった一台の「メルセデス・マイバッハ」が完成しました。サンルーフなどの装飾を手がけた引箔作家の村田さんと、Kiwakotoディレクターの吉村さんに、この特別な車に込めた思いをお話いただきました。

Kiwa Koto

引箔作家
村田 紘平(むらた・こうへい)
1977年、京都市生まれ。西陣織 箔屋『楽芸工房』の3代目。大学進学と同時に父親に師事し、「引箔」の制作技法を学ぶ。帯地のデザインだけでなくさまざまな建築装飾や金箔を用いたアート作品の制作にも取り組む。経済産業大臣指定伝統的工芸品 西陣織 製糸部門 伝統工芸士。

Kiwakotoディレクター
吉村 優(よしむら・まさる)
伝統工芸とカーライフの融合を行うブランド「Kiwakoto(キワコト)」を立ち上げ、西陣織や蒔絵といった京都らしい技術で車を好みの仕様にオーダーするクラフトカーサービスと、車載用の花器・ミニ茶釜の入った野点セットなど、ラグジュアリーなカーライフを演出するオリジナル商品を展開。
<https://kiwakoto.com/>



シート状の引箔を切り屋さんが0.3ミリほどに裁断し西陣織の横糸となる



アーバンホテル京都 四条プレミアムのフロント壁面

「箔をつける」「箔屋」という仕事

村田 僕の仕事は、西陣織の糸の原料である「引箔(ひきはく)」を作ること。「箔屋」と呼ばれます。「糸を作る」といってもちょっと特殊な方法で、ベースとなるのは和紙です。まず45×60センチの和紙を漆やラッカーなどで彩色し、さらにその上に伝統的な技法で金箔や銀箔などを貼り、柄をつけていきます。「きれいな柄を作る」というイメージです。5枚作るとちょうど帯1本分になります。この和紙を裁断担当の職人さんが細かく裁断することで「箔糸」が生まれ、これを織っていくと、西陣織の帯地になります。

「引箔」は西陣織の中でも高級なものに使われます。箔を使うことで、糸だけでは表現できないデザインが可能になります。「値打ちがあがる」ということ。今回のマイバッハもまさにそうでした。帯ならその帯を締めている人が主役なのと同じです。誰が主役か？乗ってくれる人だと。では、その人を引き立てるためにはどんな柄がよいか？…と、大元から順番に考えていったことと、吉村さん提案の宇宙的なイメージがびつたり重なったので、完成した車はまったく違和感なく、イメージどおりでした。



連携する「伝統工芸」に、 支えられた

吉村 とはいえ、実制作は本当に試行錯誤の連続で…いろいろと大変な思いをしていただきました。今回の内装のサンルーフのコンセプトは「三つの世界を見られる」と。まず、天井の西陣織の空。次に、西陣織を開けた時に広がる「箔」の宇宙。そして、ルーフを開けた時に本物の空が見える、というものです。ですが、最大の問題はこのガラスでした。

意味の慣用語、「箔がつく」という言葉はここからきています。最近では、この技術を使った「作品」を作ってほしいという依頼が増えてきました。新しくできた「アーバンホテル京都」の全室、それにフロントの壁にも僕の作ったパネルが飾られています。そして今回、「マイバッハ」の内装のお話をいただいて、最初はもう、どうしようかなと。誰もが知る完成された車に、どうやって西陣の伝統産業を落とし込むのか。それは楽しみな反面、とても怖いことでした。



村田 本当は、箔は漆で付けるのがいいんですが、ガラスでも漆ならつくのですが、紫外線による剥離の可能性があり、使いませんでした。

吉村 困りました。これが駄目ならコンセプトそのものが成り立たなくなってしまう。

村田 でも結局、接着剤の選定など、どうすればよいかを考えてくれたのは漆屋さんでした(笑)。

吉村 いろんな人を巻き込みました。関わってくださった職人さんは総勢6名。私のコンセプトを元にデザイナーがビジュアル化し、職人のみなさんに作り方を考えていただく。こちらの無茶な要求によく応えてくださいました。

村田 京都の伝統工芸は、工程分業が著しく発達していて、それぞれに独立した専門の職人がレベルの高い仕事をします。たとえば西陣織の完成までには20を超える工程があります。今回、車という特殊な仕事でしたが、普段の連携と同じように、全員がそれぞれのフィールドで、それぞれの仕事でできたと思います。

「本当の自分」でいられる車

村田 完成した車に実際に乗ってみました。自分の着物を着ているようなリラックスできる空間です。僕ら職人のこだわりでもある「長く使い続けられるもの」に仕上がったと感じました。

吉村 このマイバッハは「人が人であるための空間」、そして「その人がその人らしくいられる空間」。たくさんの方々への思いが、幾重にも重なって完成した車です。

心身をリセットするために、 「車内」という空間ができること

吉村 マイバッハという車は基本的に「後部座席に座る車」です。とすると、ここに乗られるのはおそらく経営者などの組織のトップに近い立場の方が多い。こういう立場の方々の仕事は、毎日意思決定の連続。どこでニュートラルな「自己」を取り戻すのか？それは「移動する空間の中」でしか、なかなか難しいかもしれません。より物事を考えやすいのはどんな車内かを思索し、掲げたテーマが「久遠夢想(くおんむそう)」です。

生物が太古から受け継いできた光は人の感情に触れ、残り、響きます。光を軸に、最先端テクノロジーを用いたマイバッハと伝統の技を掛け合わせ、過去から未来につながっていくような優美な光を車内に演出することで、自身の過去、現在、未来をつなぎあわせられる。変わらないものはなにか、変えてはならないものはなにか、変えるべきものはなにかをニュートラルに考えられる空間。この空間を実現させるために、引箔の技術を使わせていただくことになり、村田さんにはサンルーフとインテリアパネルの装飾をお願いしました。

使い手が引き立ち、 映える「背景」を作る

村田 西陣織の仕事を始め、最初に師でもある父から教えられたのは、「引箔は、単独で柄を表現するものではない。あくまで帯地の『背景』であって、その上に載る織りや染めなど、メイ

1月21日(火)2号店オープン テイクフィジカルコンディショニングジム京都北山



JRA騎手の武豊氏を総合プロデューサーとして、「ボディケア」と「トレーニング」を融合したメソッドを提供する会員制コンディショニングジム「TAKE PHYSICAL CONDITIONING GYM」の2号店を、京都北山エリアに2020年1月21日(火)オープンしました。国家資格と医学的知識をもったセラピストがカウンセリングし、理学療法を用いたケアと身体の柔軟性や筋力を高めるトレーニングで、痛みや疲れをその原因にまでさかのぼって取り除き、トラブルが起これにくい、しなやかな身体を育てます。プロスポーツ選手やパラアスリートから、姿勢改善や美脚目的、シニアの方まで、スポーツ歴や目的についても幅広い層の方にご利用いただけます。

京都市左京区下鴨神殿町9
(下鴨本通り沿い、北山駅から徒歩約6分)
専用駐車場あり
TEL: 075-707-2238 (10:00~18:00)
mail: info-take_kyotokitayama@take-pc.co.jp
HP: <http://take-pc.co.jp>
Facebook: <https://fb.com/tpc.gym>